

第4ブロック研究部

NO. 4



令和7年度 研究主題

遊びの中の学びを探る

研究園

五条 真田山 味原 大江 生魂 鶴橋 常盤 長吉 長吉第二 瓜破北 加美北

第4回研究部会

令和7年8月26日（火）

《講演会》

「『遊びは学び』・『遊びは学び?』」

講師：大阪常磐会大学 短期大学部 教授

1. 現行の幼稚園教育要領・保育所保育指針

幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂の経緯について

(1) 幼稚園教育要領の改定前にされた議論

- 幼稚園教育要領と保育所保育指針に、小学1年の学習内容の要素を取り込むことを検討された。

(2) 要領・指針の改訂のポイント

- 戦後から変わらず大切にした「遊びを通して発達に必要な経験を積み重ねる」という「常識」が言語化されことで「何が育っているのか」を意識して保育していくこと、計画しておくことが大切と再確認された。

- 指針・要領の二面性

「明確な保育方針を示したもの」であるとともに、「如何様にも解釈できる鳩のような存在」でもある。→各現場における読みとりと適応の仕方によって異なる実践が生まれる可能性がある。

2. 遊びの中の学びや育ちを捉える

「『遊びは学び』・『遊びは学び?』」

- 乳幼児期の保育・教育で特に重視されているのは「遊び」である。

- 遊びに教育的な価値はあるが、一度何かに取り組めばできるようになるものではない。繰り返し遊ぶ中で、結果として「じわじわ」と自然に色々なものを獲得していく。遊びの面白さが充実することで、学びの内容も深まる。

→「好き」と思える遊びがあることが原動力

- 遊びを通して幼児を育っていくには、「遊びそのものの面白さの発展」「遊びの中で獲得するものの確認」、2つの視点がねらいに並行して含まれるようにする必要性がある。

- 幼児教育における「遊び」と小学校教育における「学習」の質の違いを意識する。

幼児教育：面白さを追求した結果の学び

小学校教育：学び、知ることが喜び 自覚的な学び

3. 遊びと仲間関係の発展を見通す

①保育課題の明確化

「活動」と「関係」／「外的側面」と「内的側面」の視点から幼児の姿を捉える。

②ねらいの明確化

どのような力・どのような関係を育てるのか。

③活動内容を考える

活動の面白さ・楽しさ・喜びを理解することが重要。

④保育者の関わりを考える。

直接的関わりと間接的関わり→一貫した考えで見通しが良くなる。

- ・活動の発展の流れを「川」として捉える。

川の堤防の片岸は子ども、対岸は保育者=子どもとおとの共同による活動の発展を見通す。保育者が遊びの見通しを確かなものにすることで、幼児の興味・関心に応じた「遊びと学び」が深まっていく。

- ・研究を整理するときに、「何を意図して、どんな関わり方をしたか」を捉えることで、保育者がしていることが意識化され、保育の質の向上に繋がる。
- ・保育の基本を見直し、原点に戻り遊びの大切さにこだわる。
- ・遊びの中から学びの特質を捉えて整理をしていく。
- ・今までの積み上げを次世代に繋げていくことが課題である。

～学んだこと～

- ・幼児の「面白い」の追求が学びにつながっていることが分かった。
- ・遊びを通して幼児は発達に必要な経験を積み重ねている。幼児が面白さを追求し充実して遊んだ結果として、自然に色々なものを獲得し学びの内容も深まっていくことが分かった。
- ・一つの遊びの中にもいろいろな学びが幼児の中に育っていることに改めて気付かされた。また、繰り返し遊ぶ中で「じわじわ」育つ学びを見逃さない大切さを学んだ。
- ・「何を意図して」「どのように」関わるか、遊びの流れを考えたうえで意識して保育することが、質の向上につながることを学んだ。
- ・幼児の姿から、どのようなことに楽しさを感じているのかを読みとり、どのような学びにつながるのか見通しをもって、長期的な視点をもつことの重要性が分かった。

